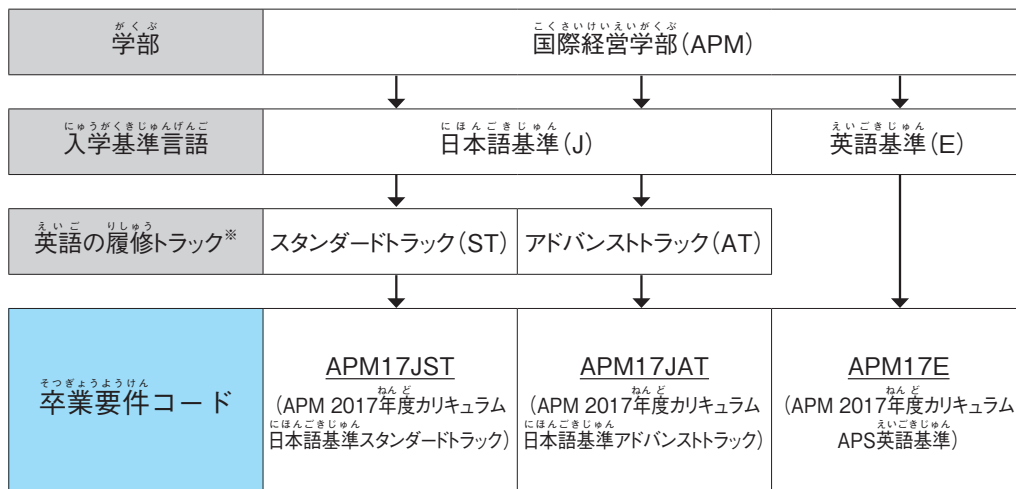


## 2.2.7 卒業要件コードの確認方法 (APM : 2017年度カリキュラム)

以下のチャートで、自身の卒業要件コードを確認することができます。



※日本語基準学生の英語科目の履修は、入学時のプレースメントテストの結果により、履修トラックと履修開始レベルが決定されます。

履修開始レベル	履修トラック
「英語初級A・B」～「英語準上級A・B」のいずれか	スタンダードトラック
「英語上級1A・1B」か「英語上級2A・2B」	アドバンストラック

## 2.2.8 卒業要件 (APM : 2017年度カリキュラム)

国際経営学部 (APM) を卒業するためには、下表の自身の卒業要件コードの列に○が付されている要件を全て満たす必要があります。表中の「詳細」に記された参照先も必ず確認してください。

No.	卒業要件	詳細	国際経営学部 (APM)		
			APM17JST	APM17JAT	APM17E
1	合計124単位以上を修得していること		○	○	○
2	必修言語科目の単位を全て修得していること (もしくは履修免除されていること)	2.2.12 (p.49)	○	○	○
3	各科目分野の必要単位数を修得していること	※ 1	○	○	○
4	英語開講科目を20単位以上修得していること (日本語基準国内学生のみ)	※ 2	○	○	—
5	APM必修科目を全て修得していること	2.2.9 (p.40)	○	○	○
6	APM必修科目 (数学) を少なくとも2単位 修得していること	2.2.9 (p.43)	○	○	○

## ※1 各科目分野で卒業に必要な単位

## APM17JST

科目分野		必要単位数	合計
共通教育科目	英語	24単位 (卒業要件 2 参照)	124単位以上 (卒業要件 1,4 参照)
	共通教養科目	16単位 (卒業要件 5 参照)	
	言語教育科目および共通教養科目	0単位	
APM 専門教育科目	必修専門教育科目	20単位 (卒業要件 5, 6 参照)	
	専門教育科目	42単位	
他学部科目		0単位	
要卒集計外科目		0単位	

## APM17JAT

科目分野		必要単位数	合計
共通教育科目	英語	12単位 (卒業要件 2 参照)	124単位以上 (卒業要件 1,4 参照)
	共通教養科目	16単位 (卒業要件 5 参照)	
	言語教育科目および共通教養科目	12単位	
APM 専門教育科目	必修専門教育科目	20単位 (卒業要件 5, 6 参照)	
	専門教育科目	42単位	
他学部科目		0単位	
要卒集計外科目		0単位	

## APM17E

科目分野		必要単位数	合計
共通教育科目	日本語	16単位 (卒業要件 2 参照)	124単位以上 (卒業要件 1 参照)
	共通教養科目	16単位 (卒業要件 5 参照)	
	言語教育科目および共通教養科目	8単位	
APM 専門教育科目	必修専門教育科目	20単位 (卒業要件 5, 6 参照)	
	専門教育科目	42単位	
他学部科目		0単位	
要卒集計外科目		0単位	

- ※2 日本語基準国内学生は、英語で開講される共通教養科目もしくは専門教育科目(自学部および他学部科目)を20単位以上修得することが必要です。言語教育科目や両言語開講科目(E/J)は、英語開講科目として認められません。なお、日本語基準国際学生はこの英語開講科目20単位以上修得の要件を満たす必要はありません。
- 日本語基準学生は国内学生も国際学生もともに英語開講科目を履修するためには「英語中級A・B」の単位修得(もしくは履修免除されていること)が必要です。ただし、スタンダードトラックの日本語基準国内学生のみが受講できる「APMブリッジプログラム」については、英語開講科目ですが、「英語準中級A・B」修得後から履修可能です。「APMブリッジプログラム」は「英語準中級A・B」修得後から「英語準上級A・B」を修得するまでのセメスターで履修科目登録をすることができます。一度修得すると、再度履修科目登録をすることはできません。

## 2.2.9 ひっしゅうかもく 必修科目 (APM)

国際経営学部 (APM) では、「経営学入門」、「統計学」、「会計学 I」、「経済学入門」、「マーケティング入門」、「金融論」、「人材と組織行動のマネジメント」、「生産管理論」、「ビジネス法務戦略」、「ビジネスエシックス」を必修科目として設定しています。さらに、深い学習と討論によりテーマについての理解や4つの学修分野の体系的な理解を身に付けるため4年間の学修の集大成となるキャップストーン科目「グローバルマネジメント (Capstone)」も必修科目として設置されています。(必修科目単位数：11科目22単位)

また、「基礎数学」および「上級数学」が必修科目 (数学) として設置されており、この2科目のうち少なくとも1つを必ず修得する必要があります。

すなわち、国際経営学部の卒業要件の中に、以下の要件が定められています。

- ・下記<必修科目>欄に記された11科目の単位をすべて修得すること(2.2.8の要件5に該当)
- ・下記<必修科目 (数学)>欄に記された科目のうち少なくとも1つを修得すること(2.2.8の要件6に該当)

### ひっしゅうかもく <必修科目>

科目名 (科目分野)	科目概要	登録	大学による 履修登録時期(※1)
経営学入門 (APM専門教育科目)	現代の企業とその経営について「全体の理解を得る」ことを目的とする科目です。特に、経営体や経営学の全体像の理解、専門科目の理解に必要な経営の基礎知識の習得を通じて、APMでマネジメントの領域を学ぶうえでの基礎固めをします。	自動登録	第1セメスター回生
会計学 I (APM専門教育科目)	会計は「ビジネスの言語」と呼ばれることもあるものであり、本科目は財務会計システムの基盤となる基礎概念やルールへの入口となっています。資産、負債、資本、収益、費用といった重要な概念について学ぶとともに、財務諸表の読み方だけでなく、その作り方について重点的に学修します。	自動登録	第2セメスター回生 (※2)
マーケティング入門 (APM専門教育科目)	今日のビジネスにおいてマーケティングはなくてはならないものです。この科目ではマーケティングの基礎知識を伸ばしていきます。期待にこたえる製品やサービスを届けるため、顧客をより理解する中心概念や手段に触れていきます。	自動登録	第2セメスター回生 (※2)

<p>経済学入門 (共通教養科目)</p>	<p>経済学は、人々の経済行動、経済の仕組み、また経済政策を理解するための有用な見方を提示する学問です。経済学入門では、経済学の考え方の基本を学び、また経済学の基本的な分析手法を身につけることにより、自らの力で経済に関する諸問題や政策を分析する力を培います。</p>	<p>自動登録</p>	<p>第2セメスター一回生 (※2)</p>
<p>金融論 (APM専門教育科目)</p>	<p>金融論は、家計、個人・機関投資家、企業、そして政策当局者が最も関心を寄せる「貨幣」「投資」および「資金調達」に関する学問です。 金融論では、「貨幣」および「金融」の基本的な役割を理解し、また、銀行や証券会社などの金融機関の機能を学修することになります。金融の基礎知識を理解することは、金融分野の中級・上級科目を履修する上での前提となるとともに、将来、ビジネスマネジメントに関わる上での中盤として欠かせません。</p>	<p>自動登録</p>	<p>第3セメスター一回生</p>
<p>人材と組織行動の マネジメント (APM専門教育科目)</p>	<p>なぜ成功する組織がある一方、他の組織は上手く機能していないのか？なぜ自分の仕事に情熱を捧げる人がいる一方、他の人は仕事に嫌気を感じたり辞めたりしてしまうのだろうか？この科目では理論や基本的原則の適応方法を提示することで、組織というコンテキストにおける人々の行動を理解し、マネジメントする方法について学修します。</p>	<p>自動登録</p>	<p>第3セメスター一回生</p>
<p>生産管理論 (APM専門教育科目)</p>	<p>生産管理は生産プロセスの組織的な管理・統制です。原料、設備、コスト、在庫、日程、品質や生産技術などの計画・監視・統制が含まれます。この科目では生産管理に関する理論や概念について学びます。</p>	<p>自動登録</p>	<p>第3セメスター一回生</p>

<p>ビジネス法務戦略 (APM専門教育科目)</p>	<p>法的環境は、あらゆるビジネスにおいて戦略と成功を決定する重要な役割を果たします。ビジネスの意思決定に関連する法的問題やそれに付随するリスクを理解することは非常に重要です。この科目では、ケースを用いながら法的状況の中で企業がいかに戦略を立てていけば良いのかを議論します。また、ビジネスにおける法律の妥当性、契約の役割、雇用義務、グローバル環境におけるビジネス倫理を重視した社会環境を取り扱います。</p>	<p>自動登録</p>	<p>第3セメスター回生</p>
<p>ビジネスエシックス (APM専門教育科目)</p>	<p>ビジネスの目的とは何だろうか？ 社会におけるその役割とは何だろうか？ 現代のビジネスのやり方において問題はないのだろうか？ 政治や倫理の役割が複雑化している世界において、これらの質問を投げかけることは実務上ますます重要になってきています。とりわけ、ビジネスで成功しようとするマネージャーにとってはなおさらです。この科目では、上記の質問に対する回答を導き出すことを学生に期待します。そうすることで、学生は倫理に基づく判断をビジネス上の意思決定に統合させ、責任感を養うことができるようになるでしょう。</p>	<p>自動登録</p>	<p>第5セメスター回生</p>
<p>グローバルマネジメント (Capstone) (APM専門教育科目)</p>	<p>グローバルマネジメントはAPMのキャップストーンであり、あらゆる専攻と国際的なバックグラウンドを持つ学生によって行われる双方向的かつコラボレーションを重視したコースです。ケース・スタディによって、学生は現実世界の事例や状況を見通し、自分たちが授業で学んだことや経験に基づいて意見を交換し、問題に対処できる解決策を創造することができるようになるでしょう。この科目では、仲間と協働で作業を進め、ビジネスに影響を与えるであろう問題に対して批判的に検討できるようになることを目指します。そのため、ビジネスの本質に関する今まで学んだあらゆる知識や必要とされるスキルを活かすことが求められます。</p>	<p>自動登録</p>	<p>第7セメスター回生</p>

<p>統計学 (共通教養科目)</p>	<p>統計学とはデータを分析・解釈し、データの特性や規則性を見出すための学問です。統計学は、様々な出来事について数量的な手法を用いて判断をするためのツールとなります。この科目では記述統計並びに解析統計学の基礎を学びます。</p>	<p>学生が登録</p>
-------------------------	--	--------------

- ※ 1 “大学による履修登録時期”が記載されている科目については、該当する履修登録時期に大学が履修科目登録を行います。なお、該当する履修登録時期に単位を修得できなかった場合は、次セメスター以降、その科目の単位を修得できるまで大学が履修科目登録を行います。
- ※ 2 「会計学Ⅰ」、「マーケティング入門」および「経済学入門」の3科目については、言語科目の開始レベルによって第1セメスターにおいて自身で履修科目登録を行うことができます。またその結果、単位を修得できた場合は、必修科目の単位として認められ、第2セメスター以降大学による自動登録は行われません。

<必修科目(数学)>

<p>科目名 (科目分野)</p>	<p>科目概要</p>	<p>登録</p>	<p>大学による 履修登録時期(※1)</p>
<p>基礎数学 (APM 専門教育科目)</p>	<p>社会科学を学ぶ上で最低限必要となる数学の素養(数式の取り扱いや作法)を磨きます。とくに、定量的な分析を行うAPM専門教育科目(金融論、経済学入門、会計学Ⅰ・Ⅱなど)で登場する、数量計算やExcel(スプレッドシートなど)といった数式処理に関連があります。本科目では、数に親しみ、数学に関する基礎的な知識や考え方、取り扱い方(リテラシー)の修得を目指します。</p>	<p>学生が登録</p>	<p>低回生で修得することを強く推奨する</p>
<p>上級数学 (APM 専門教育科目)</p>	<p>社会現象の規則性や仕組みを分析する科学的手法の基盤となる数学を学びます。とくに、定量的な分析を行うAPMの学修分野(会計・ファイナンス、マーケティング、経営戦略と組織、イノベーション・経済学)で登場する、ビジネス上の課題分析や意思決定に付随する数理モデル(数学の言葉を用いた定式化)に関連があります。本科目では、社会科学に係る数学的知識を深め、応用例に触れつつ、数学の技能の向上を目指します。</p>	<p>学生が登録</p>	<p>低回生で修得することを強く推奨する</p>



2017年度カリキュラム(APM)

2.2.10 卒業要件確認表 (APM)

卒業要件コード  
APM17JST  
(P.38参照)

※2 16単位のうち、以下の科目は必ず修得する必要があります。  
「経済学入門」(2単位：第1セメスターに未修得の場合、第2セメスターに自動登録)  
「統計学」(2単位：学生自身によって登録)

※3 プレイスメントテスト等の結果により必修言語科目が免除された場合、免除された単位数分の科目を、「言語教育科目および共通教養科目」分野で修得する必要があります。

※6 日本語基準国内学生は、英語で開講される共通教養科目もしくは専門教育科目(他学部科目を含む)を20単位以上修得する必要があります。

科目分野	必要単位数	合計
英語	24単位	124単位以上
共通教養科目	16単位	
言語教育科目および共通教養科目	0単位	124単位以上
必修専門教育科目	20単位	
専門教育科目	42単位	124単位以上
他学部科目	0単位	
要卒業計外科目	0単位	124単位以上

別表

科目名	自動登録セメスター
経済学入門	第1セメスター
基礎数学 *A	-
会計学I *B	第2セメスター
マーケティング入門 *B	第2セメスター
上級数学 *A	-
金融論	第3セメスター
人材と組織行動のマネジメント	第3セメスター
生産管理論	第3セメスター
ビジネス英語概論	第3セメスター
ビジネスエッセイックス	第5セメスター
グローバルマネジメント(Capstone)	第7セメスター

\*A 「基礎数学」は第1セメスター以降、「上級数学」は第3セメスター以降に随時自動登録が可能です。こちらの科目は自動登録ではありません。

\*B 言語開始レベルによって第1セメスターに学生自身が随時自動登録することが可能です。第2セメスター開始時に未修得の場合は、大学によって自動登録されます。

※1 要卒業計外科目とは卒業要件の「124単位」に集計されない科目です。「プロジェクト研究」「ポスター研究」は各8単位まで、「インターシップ」「ビジネスインターシップ」は合計14単位までは「124単位」に含むことができますが、それぞれ上限を超えて修得した場合には、超過分は要卒業計外の単位としてみなされます。

※5 必要単位数が0となっている分野の科目は修得しなくても、その他条件を満たしていれば卒業は可能です。

※4 「別表」の必修専門教育科目を修得する必要があります。ただし、数学科目は「基礎数学」「上級数学」のいずれかの修得が必要です。

卒業要件コード  
**APM17JAT**  
(P.38参照)

※2 16単位のうち、以下の科目は必ず修得する必要があります。  
 「経済学入門」(2単位：第1セメスターに未修得の場合、第2セメスターに自動登録)  
 「統計学」(2単位：学生自身によって登録)

※3 プレイメントテスト等の結果により必修言語科目が免除された場合、免除された単位数分の科目を、「言語教育科目および共通教養科目」分野で修得する必要があります。

※6 日本語基準国内学生は、英語で開講される共通教養科目もしくは専門教育科目(他学部科目含む)を20単位以上修得する必要があります。

科目分野	必要単位数	合計
英語	12単位	124単位以上
共通教養科目	16単位	
言語教育科目および共通教養科目	12単位	
APM専門教育科目	20単位	42単位
専門教育科目	42単位	
他学部科目	0単位	0単位
要卒業計外科目	0単位	

別表

科目名	自動登録セメスター
経済学入門	第1セメスター
基礎数学 *A	-
会計学 *B	第2セメスター
マーケティング入門 *B	第2セメスター
上級数学 *A	-
金銭論	第3セメスター
人材と組織行動のマネジメント	第3セメスター
生産管理論	第3セメスター
ビジネス法務概論	第3セメスター
ビジネスエシックス	第5セメスター
グローバルマネジメント(Global) *B	第7セメスター

\*A 「基礎数学」は第1セメスター以降、「上級数学」は第3セメスター以降に履修科目登録が可能です。これらの科目は自動登録ではありません。

\*B 言語開始レベルによって第1セメスターに学生自身が履修科目登録することが可能です。第2セメスター開始時に未修得の場合は、大学によって自動登録されます。

※1 要卒業計外科目とは卒業要件の「124単位」に集計されない科目です。「プロジェクト研究」「ポランティア研究」は各8単位まで、「インターンシップ」「ビジネスインターンシップ」は合計14単位までは「124単位」に含むことができますが、それぞれ上限を超えて修得した場合には、超過分は要卒業計外の単位としてみなされます。

※5 必要単位数が0となっている分野の科目は修得しなくても、その他条件を満たしていれば卒業は可能です。

※4 「別表」の必修専門教育科目を修得する必要があります。ただし、数学科目は「基礎数学」「上級数学」のいずれかの修得が必要です。



卒業要件コード  
**APM17E**  
(P.38参照)

※2 16単位のうち、以下の科目は必ず修得する必要があります。  
 【経済学入門】(2単位：第1セメスターに未修得の場合、第2セメスターに自動登録)  
 【統計学】(2単位：学生自身によって登録)

※3 プレイメントテスト等の結果により必修言語科目が免除された場合、免除された単位数分の科目を、「言語教育科目および共通教養科目」分野で修得する必要があります。

科目分野	必要単位数	合計
日本語	16単位	124単位以上
共通教養科目	16単位 ※2	
言語教育科目および共通教養科目	8単位 ※3	
APM専門教育科目	20単位 ※4	0単位
他学部科目	42単位 ※5	
要卒業計外科目 ※1	0単位	

卒業科目別表

科目名	自動登録セメスター
経済学入門	第1セメスター
基礎数学 A	-
会計学 I ※B	第2セメスター
マーケティング入門 ※B	第2セメスター
上級数学 A	-
全論論	第3セメスター
人材と組織行動のマネジメント	第3セメスター
生産管理論	第3セメスター
ビジネス法務概論	第3セメスター
ビジネスエッセイックス	第5セメスター
グローバルマネジメント(Capstone)	第7セメスター

※A 「基礎数学」は第1セメスター以降、「上級数学」は第2セメスター以降に履修科目登録が可能です。こちらの科目は自動登録ではありません。

※B 言語開始レベルによって第1セメスターに学生自身が履修科目登録することが可能です。第2セメスター開始時に未修得の場合は、大学によって自動登録されます。

※1 要卒業計外科目とは卒業要件の「124単位」に集計されない科目です。「プロジェクト研究」「ボランティア研究」は各8単位まで、「インターシップ」「ビジネスインターンシップ」は合計14単位までは「124単位」に含まれ、それぞれ上限を超えて修得した場合には、超過分は要卒業計外の単位としてみなされます。

※5 必要単位数が0となっている分野の科目は修得しなくても、その他条件を満たしていれば卒業は可能です。

※4 別表の必修専門教育科目を修得する必要があります。ただし、数学科目は「基礎数学」「上級数学」のいずれかの修得が必要です。